



カンデサルタン錠「タナベ」を お飲みになる高血圧症の患者さんへ

カンデサルタン錠「タナベ」は、高血圧症の治療に用いられます。

血管を収縮して血圧を上げる体内の物質であるアンジオテンシンⅡの受容体に拮抗し、末梢血管の抵抗を低下させて血圧を下げるおクスリです。

2mg 〈表〉  〈裏〉 

〈表面〉  〈裏面〉 

PTPシート

4mg 〈表〉  〈裏〉 

〈表面〉  〈裏面〉 

PTPシート

8mg 〈表〉  〈裏〉 

〈表面〉  〈裏面〉 

PTPシート

12mg 〈表〉  〈裏〉 

〈表面〉  〈裏面〉 

PTPシート

おくすりを飲むときに注意すること

- ◆ おくすりはPTPシートから取り出してお飲みください。
- ◆ 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。
 - 以前におくすりを使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
血中カリウム濃度が高い、手術前、血液透析をしている、減塩療法中、血中ナトリウム濃度が低い、心臓疾患、腎障害、肝障害がある。
 - 妊娠中、妊娠している可能性がある、授乳中。
 - 他におくすりを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。
- ◆ 生活上の注意
 - 血圧が低下することにより、めまい、ふらつきが起こることがありますので、高いところでの作業、車の運転や危険を伴う機械の操作には注意してください。
- ◆ 保管上の注意
 - 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
 - おくすりが残った場合、保管しないで廃棄してください。



このおくすりを使ったあと 気をつけていただくこと（副作用）

◆副作用として、発疹、かゆみ、光線過敏症、めまい、ふらつき、立ちくらみ、動悸、ほてり、頭痛、頭重感、不眠、眠気、舌のしびれ、悪心、嘔吐、食欲不振、胃部不快感、みぞおちの痛み、下痢、口内炎、貧血、倦怠感、脱力感、鼻出血、頻尿、浮腫、咳などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

◆まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 顔・舌・のどが腫れる、息苦しい[血管浮腫]
- 冷たく感じる、吐く、意識がなくなる[ショック、失神、意識消失]
- 尿量が減る、顔や手足がむくむ、熱が出る[急性腎不全]
- 手足や唇がしびれる、筋力がおとろえる[高カリウム血症]
- 皮膚や白目が黄色くなる、体がだるい、食欲不振[肝機能障害・黄疸]
- 発熱、のどが痛い、体がだるい[無顆粒球症]
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿[横紋筋融解症]
- 発熱、から咳、息苦しい[間質性肺炎]
- 冷や汗が出る、空腹感、手のふるえ[低血糖]



以上の副作用はすべてを記載したものではありません。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

高血圧患者さんは 血圧をしっかり 管理することが 大切です

【監修】

医薬情報研究所／
株式会社エス・アイ・シー
公園前薬局（東京都）
薬剤師 堀 美智子 先生



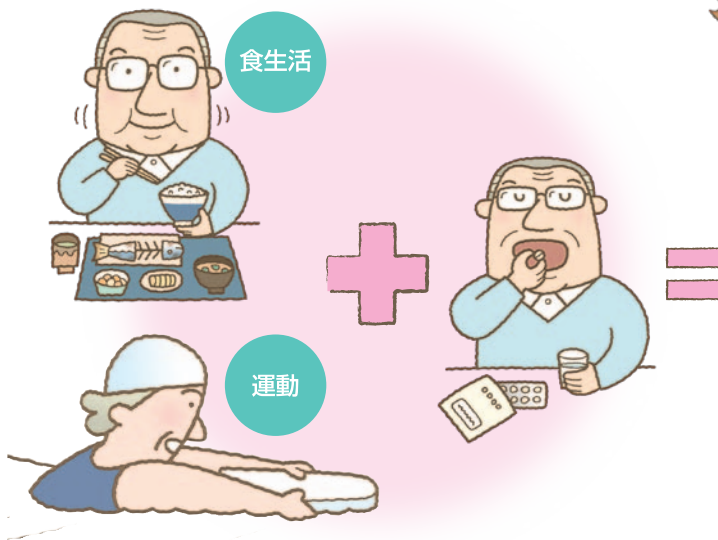
高血圧と診断されたら…

高血圧の治療は、「生活習慣の改善」と「薬物療法」が基本となります。

生活習慣の改善と薬物療法をどのように組み合わせるかは、患者さんの状態によって異なりますが、

生活習慣の改善

薬物療法



リスク(年齢や合併症など)の程度に応じた治療が行われます。高血圧と診断された方は、動脈硬化や合併症の発症・進展を予防するためにもこれらの治療を行い、血圧をコントロールすることがとても大切です。

血圧コントロール

降圧目標値

	診察室血圧	家庭血圧
若年・中年者患者・ 65歳以上の 高齢者患者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満
75歳以上の 高齢者患者	150/90mmHg未満 (忍容性があれば140/90mmHg未満)	145/85mmHg未満(目安) (忍容性があれば135/85mmHg未満)
糖尿病患者	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満
慢性腎臓病患者 (蛋白尿陽性)	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満(目安)
脳血管障害患者・ 冠動脈疾患患者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満(目安)

日本高血圧学会 「高血圧治療ガイドライン2014年版」より

家庭での血圧管理が大切です

高血圧の患者さんにおいては、血圧が24時間にわたり適切にコントロールされているかどうかが大変重要です。

日々の「家庭血圧」を記録しておくことは、薬物治療の効果を評価する上で大変有用ですので、日頃から血圧の変化をチェックするようにしましょう。診察室血圧と家庭血圧の間に診断の差がある場合、家庭血圧による診断が優先されます。

家庭で血圧を
測定しましょう

おくすりを忘れず
飲みましょう



*1度に2回測定して、その平均を用います。

血圧手帳を
活用しましょう



おくすりの飲み方と量

- ◆通常、1日1回、錠お飲みください。
- ◆おくすりの飲み方と量は、あなたの年齢や症状にあわせて、医師が決めます。
指示のとおり飲んでください。

飲み方

- ① 飲むときはコップ1杯程度の水またはぬるま湯と
いっしょに飲んでください。
- ② 飲み忘れた場合は、気がついた時に1回分を飲
んでください。
ただし、次の通常飲む時間が8時間以内の場合
は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてくだ
さい。
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ③ 誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師に
相談してください。
- ④ ご高齢の方は、特に医師の指示を守って使用し
てください。
- ⑤ 医師の指示なしに自分の判断で飲むのをやめ
ないでください。

医療機関・薬局名